

平成25年度鳥取県中部沿岸土砂管理協議会

【日時】 平成25年10月17日（木） 10:00～11:30

【場所】 鳥取県中部総合事務所 B棟2階 203会議室

【出席者】 会長：鳥取大学大学院工学研究科 松原教授

協議会委員：別紙のとおり

角田委員は所用により横林副所長代理出席
清水委員は所用により欠席
森下委員は所用により松本課長補佐代理出席
林委員は所用により内田参事代理出席

オブザーバー：別紙のとおり

事務局：河川課（丸毛課長、清水課長補佐、森係長、白根係長、宮中技師、露木技師）

【協議概要】

赤碕港から泊漁港の区域において、土砂の流れの連続性の確保及び回復を目指し、関係機関が連携しながら土砂管理等を促進するため、その方策の検討及び調整を行った。

【協議結果】

- 前回協議会（H25.2.20）の意見に対する対応について説明。委員から特に意見無し。
- 各議事における意見は以下のとおり。
 - サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出
 - ◇天神川河口左岸～北条川放水路右岸
 - ✓ 天神川河道掘削により土砂が発生する予定。調整をお願いしたい。
 - ✓ 西新田場付近に侵食傾向が見られるので、引き続き対応をお願いしたい。
 - ◇由良川左岸（由良川河口付近～逢東港船揚場）
 - ✓ 八橋川と新川の河口付近の侵食が顕著なため、対応をお願いしたい。
 - ◇全体
 - ✓ 海浜を的確に評価できる基準が必要であり、「必要とされる浜幅」を設定すべきである。
 - 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて
 - ✓ 積極的に推進してほしい。
- 次回協議会の開催時期は、H26.10月頃を予定。

【協議内容】

【議事1】 サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

◇天神川左岸（天神川河口左岸～北条川放水路右岸）

(角田委員(代理) 横林副所長)

- ・天神川本川上流（三朝町）で、10月後半から河道掘削工事に入る。H26.1月、2月位に2～3万m³程度土砂が出る予定。調整をお願いしたい。

(松原会長)

- ・れき分を多く含む土砂は、有効な海岸保全土砂になる。積極的に利用すべき。

(事務局)

- ・土質や粒径に配慮しながら連携・調整していきたい。

(飯田委員)

- ・西新田場付近に侵食傾向が見られるので、引き続き対応をお願いしたい。

◇由良川左岸（由良川河口付近～逢東港船揚場）

(澤田委員)

- ・八橋川と新川の河口付近の侵食が顕著。昔は波返し擁壁の前面に海浜があったが、最近はなくなっている。

(松原会長)

- ・海浜を形成する砂を逃がさないよう、離岸堤と突堤が設置されているが、おそらく離岸堤の開口部から砂が逃げてしまったと考えられる。当面は土砂を搬入するのが手っ取り早い対策。

(新委員)

- ・今後対策を検討する。

◇全体

(黒岩委員)

- ・現在の海浜の評価手法は、過去からの汀線変動量を基本としており、その変動量が少ないことから、現在の海浜が安定的であるという結論を導いている。しかし、ベースとなっている過去の汀線が本当に良好なものであるか不明であり、海浜の評価方法として信頼性が薄い。海岸には必要とされる浜幅がある。その浜幅を下回らなければ、まだ侵食は許容されるなど、現在の海浜を的確に評価できる基準が必要であり、「必要とされる浜幅」を設定すべきであるとする。

(事務局)

- ・海岸保全施設としての必要浜幅の算定は必要であると認識しており、今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。

【議事2】 土砂管理計画の点検

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉 →特に意見なし

【その他】 天神川水系土砂管理計画について

(倉吉河川国道事務所 原調査設計第一課長)

- ・〈資料に沿って説明〉

(松原会長)

- ・年平均通過土砂量の検討で、海への土砂流出量が2万 m³/年程度あるということで、県ガイドラインの計画とも概ね一致している。

【その他】 陸上海岸における簡易な移動装置によるサンドバイパス試験工事の取り組みについて

(事務局)

- ・〈資料に沿って説明〉

(松原会長)

- ・ぜひ積極的に推進していただきたい。